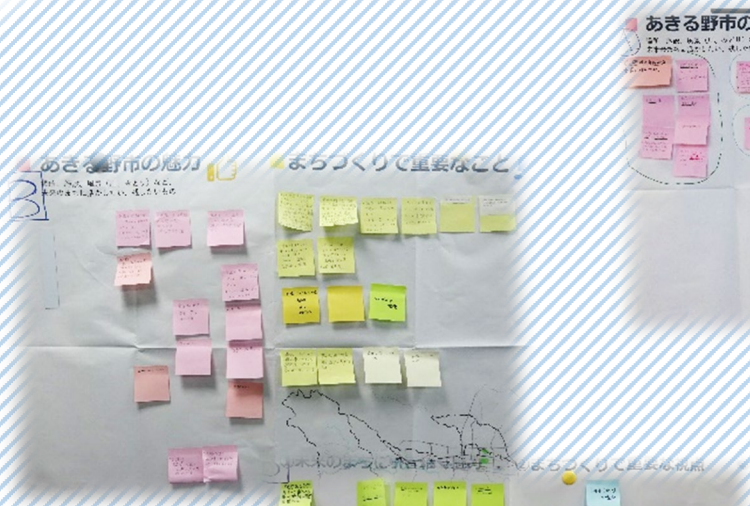
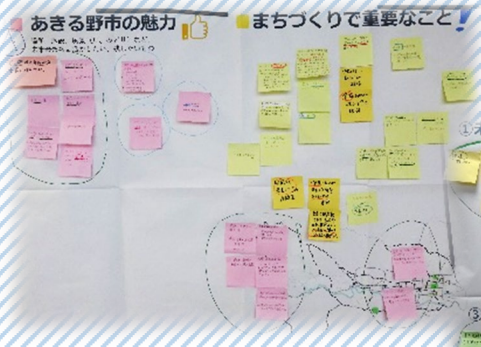
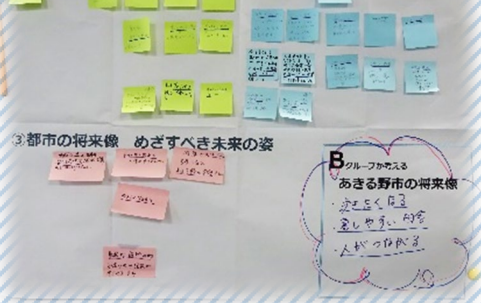


みんなで考える
未来のあきる野

みんなのアイデア



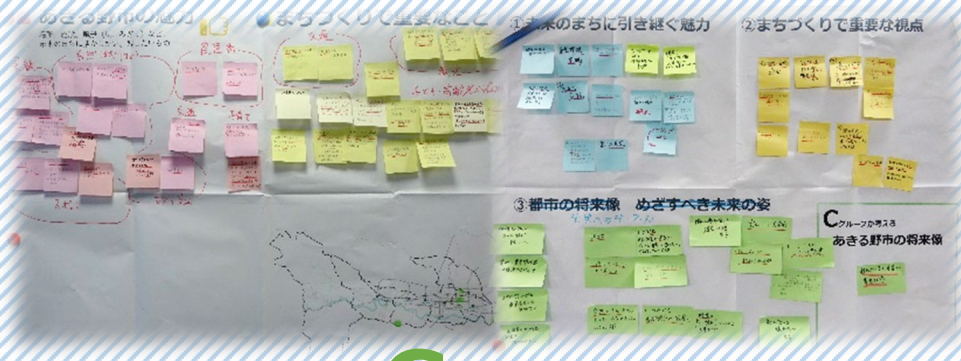
Bグループ



Aグループ



Aグループが考える
あきる野市の将来像



Cグループ

Cグループが考える
あきる野市の将来像

Aグループ

- 川、山や畑の自然が豊富で住みやすい
- 自然環境が良いところ。山、川、公園がある
- 草花公園
- 自然が豊かなところ
- 草花小の周りの平井川周辺
- 自然が残っているし地域のお祭りなどがある点とても気に入っている。
- 水清く、家族で楽しめる自然、川と山がある
- 高尾地区の大光寺には4匹の猫が住み、お参りの人たちを見守っている
- 戸倉小宮地区の秋川谷
- 養沢川の上流部
- 大岳沢、御岳沢
- 城山、高明山、馬頭刈山等の景観
- 戸倉光厳寺の大桜
- 都の天然記念物に指定されています。見ごろは4月中旬です。
- 山溪（自然休養村）
- バーベキューをしながら夏は川遊び、魚釣りもでき、自然の中で1日楽しむことができます
- 高尾山（タカオヤマ）の山頂（鉄塔付近）から旧五日市町が見える。
- 高尾地区の小さなお祭りに地区内の子供たちが大勢参加する
- 特色のある保育園や幼稚園がある
 - ・みどりの国
 - ・ウッディキッズ
 - ・ころりん村
 - ・大久野幼稚園
 - ・多摩川幼稚園
 - ・すもも木幼稚園 等
- 都会ではないが映画館（日の出）などあるのであきる野市だけで用が済む点
- 菅生地区、団体が、町内会に団体登録しているため、尾根道の整備、地域の行事などに参加させてもらっているため。
- 川沿いの遊歩道
- 平井川→多摩川→秋川と繋げてサイクリングできる
- 町をあげて付加価値を上げていく条例づくり（Ex.家を乱立させない、一つ一つの家の価値が下がらないように）
- 電線は埋める
- 山、川、公園の無料駐車場（または安価なパーキング）
- 公園施設の充実
- あきる野市に住みたいと思うまちづくりが必要だと思います
- 将来を担う子供たちのための投資が不可欠です
- まちづくりの意識を持ち、まわりにどう伝えるか
- 治山、治水に徹した安全安心の自然を守り育てる
- 災害に強い居住エリアの確保
- 災害にあわない公共エリアの確保
- 自然環境を生かした市外の人に住みたくなるような環境づくり
- 現在の自然を生かした中で。住みやすい環境を作ること
- 山林河川の自然の宝を最大限に活用、利用することに努力する
- 駅周辺の商業エリアの再開発
- 東京の奥座敷である五日市及び檜原の山々や渓谷に繋がるJR線の複線化
- 子育てがひと段落した世代以降（老人も含め）子育てを通してかかわっていく場を作ること。その結果として老若男女問わず、地域と関わり合いが生まれ頼りやすい、安心できる必要とされる、話し相手ができる、守られていると感じることができ、一生涯を通じて住みやすいと思える
- 資金面で不安が無いまち
- 近所のコミュニケーションを図る
- 弱者にやさしい
- 木材の活用、空地、休閒地畑の活用、空き家の有効活用
- 子どものいる家族が移住しやすい環境、受け入れ態勢づくり
- 自然の多い町だが、手つかずの荒れてしまった里地、里山があります。
- この財産を無駄にしないまちづくり
- JR線と南北に交差する多摩モノレールの誘致
- 高齢者に対する生活上すべてのケア
- 交通など
- 土地があるところ→利用方法を考える

Aグループ

- 環境残したい
- 星が見える夜空 刈寄
- 秋川の清流
- ヤマメ、アユ、ハヤが住める川を残したい
- 平井川、秋川の自然
- 清流、川遊び、釣り
- 里山、登山、自然を生かす
- 畑を活用
- 整備された里地、里山
- 緑は多く残したい
- 開発が進んで畑がなくならないように
- もともとある自然を維持しつつその整備等を付加価値をつける
- 自然の中での子育て
- 多様性のある教育と選択の自由
- 自給自足と自然の循環
- あきる野市は食の供給地域なので畑や田の作業は引き継いでいってほしい
- 祭り
- 郷土芸能
- お囃子
- 行政が地域の行事をHPで発信していく、または団体のHPのリンクを貼るなどする

- 子育てしやすいまち
- 子育てに強いまち
- 働く場所
- 企業は来てほしいが環境は守りたい
- 市がHP等でPR発信
- 行政が間に立ち、やってほしい人とやりたい人を結びつける
- 情報発信とマッチング
- 情報をどう共有していくのか
- JR五日市線が東西の足であるなら南北の足を進める。これができれば八王子青梅の足が良くなる
- 子どもと老人が共生していくまち（高齢者も身近で働くことができる）
- ポイント制のシステム
- 高齢者を巻き込んでいろいろなイベント等すすめていく
- 交通が不便なのでバスの回数、電車、るのバスの巡回が多い
- JRの複線化の推進
- モノレールの誘致の推進
- 五日市駅を十里木まで
- 交通の便
- 徒歩圏内でのバス生活の質の向上
- 革新多岐な付加価値
- あきる野独自
- 市内で循環させる
- 老若男女隔てず考える
- ボランティア任せにしない
- 景観の保全
- 地中化（電線）
- キャンプ体験

- 自然（山、川、畑）豊か
- 自然環境豊かなまちだが、利便性が伴ったまち
- 自然があり、生活に交通の心配が少なく人の交流ができるまち
- 「自然環境」「子育て」「雇用機会」「市民の方々の交流」を大切にすまち
- 交通利便性も
- 現在の自然を残しつつ、安心して生涯を楽しく過ごせるまち
- 清流があり山があり、ホテルが飛び自然が多く生き生きと生活しやすいまち
- 住みたいまち
- ご近所の人が集まって晩ご飯を食べるコミュニティ
- 住みたいと思うまちになってほしい、しかし利便性のみ求めてほしくない
- どこかでボランティアが足りない時、自分で決められて手伝いができる

将来像

- ◆ 「あきる野」ブランド化
- ◆ あきる野家族

Bグループ

- 市役所と五日市線の間一面に広がるトウモロコシ畑
- 武蔵引田駅の周り農地が広がっているところ。（オオタカやヒバリ、タヌキ、キツネが見られます）
- 沢戸橋下
- 水遊びに最適な場所
- 飛び込みあり、魚釣り、日蔭も適当にあり1日いても飽きない
- 南沢あじさい山とその周辺の店
- 深沢小さな美術館など
- 車の流れスムーズ
- （五日市地区）山、川、畑と住居が一体になっている
- 自然が豊か
- ファーマーズセンター
- 農産地があり安全、安心、低価格
- 自然が多い
- 身近に農地や川があって自然と触れ合えること（東京では絶滅危惧のヒバリがいるところ）
- 自然が豊かなところ
- 深沢地区の山林、山里らしさがいいです
- 秋川周辺をただ自然があるだけではなく、市民や市外の人も川遊びやバーベキューを楽しめるようトイレや駐車場をもっと整備し、住宅地内にある牧場を川沿いに移転し、家族でソフトクリームを楽しめるような観光牧場化して応援しよう
- あきる野市民の願いだった五日市線の複線化はそれどころか平成27年のダイヤ改正で本数が減らされてしまいました。線路脇に政策的？で残された緑地を有効活用しよう
- 農業を応援して身近な農地を残してほしい。（住宅と農地が一体となったまちづくりを望みます）
- 市外からアウトドアを楽しみに来る人々が来やすいようにフィールド、道路、駐車場近くの整備
- 様々なイベントなど続けること。それをより改善してレベルの高いものにしていくこと
- 子ども老人含め自然の中で体を動かすように環境を整える（公園、駐車場など）
- 地域コミュニティのあり方
 - ・高齢化
 - ・子供
 - ・世代交代
- るのバスの増便
- 子育て中の方が生活しやすいこと
- 子ども、高齢者、障がい者など社会的弱者にとって住みやすいまちづくり
- 大切な自然を守りつつ、河川や斜面などの危機管理をしっかりやってほしい
- 変わらないことも重要。新しいことがいいことではない
- 若者を受け入れる方法
- 高齢者をどうしていくか

Bグループ

- 現在ある自然をもっと楽しめるような施設環境を整える
- 住宅の近くの農地を残して欲しい
- 自治会→30代40代の世代の加入が必要（ネーミング）
- 身近な自然を残したい（農地など）
- 交通量が少ない
- 農産物が豊か＝生産者がいる
- 田畑の活用
- 今のままの自然。山と川中心に
- 変えない山、川、自然と人に都合に合わせた山、川、自然づくり
- もっと若い人達を使う、押し上げる
- 車での移動が楽である

- 海外（外国人）との交流
- 自然を残しつつ河川や斜面などの安全に配慮する（危機管理）
- 何をしても財政が必要なので何もかもやるというよりやる事を絞ってやって欲しい
- 20年後— 今の若い人が生活しやすいまちづくり（仕事、子供、教育）
- 里山の自然を（農地や川などヒバリやオオタカなど残して住民や観光に生かす
- あくまで、あきる野市らしさを貫く
- 他の市町村と横並びである必要はない
- 農地を残す
- 就農サポート
- 宅地を増やさない
- 自然へのアクセス
 - ・ 駐車場
 - ・ 自転車道
 - ・ ランニング道路
 - ・ ハイキングトレイル
 - ・ 公園
- 大企業に来てもらうだけでなく将来大企業に育つ可能性のある若者ベンチャー企業に多数来てもらう
- 手すりをつける（駅前の広場）（ハードな面）
- 人と人とのつながり（ソフトな面）
- 子どもへの教育⇔自然・農、独自性
- 若者が誇れるような力をつける。その為に今から（若者～20才）の人たちが参加できるようにしていく

- 観光の人達と住民も集えるスペース
- 広場、公園でゆっくりしたい
- 自分の市を誇れる人達の集いになっている
- 歩きたくなるまち
- 身近な自然の中で子供たちや住民が過ごせるまち
- 健康で心も強い子供を育て、あきる野を大好きに

将来像

- ◆ 歩きたくなる
- ◆ 暮らしやすい田舎
- ◆ 人がつながる

Cグループ

- 市の背後に広がる山林、そこから得られる水資源の作り出す景観（城山、金毘羅山、馬頭刈山、横沢入や小庄の田んぼなど）
- 武蔵増戸駅から武蔵引田駅間の南北の農道
- 車窓からの景色
- 武蔵五日市駅へ向かう電車の車窓から見える”やまなみ、街なみ“の素朴な感じ
- 乙津 花の里
- しろやまテラス（秋川流域の大地、立地、食堂（給食）、宿泊）
- 市の公民館で様々な講義や催しが楽しめる
- 秋川周辺（五日市～山側）
- 家の近くで川遊びを楽しめる（秋川）
- 秋川渓谷
- 緑や川等の自然が多いところ
- 小さな自然、ヒバリのさえずる里、小さな澤地、小さな森林
- 自然の豊かなこと
- 歴史と文化、五日市憲法、小さな文化財
- 地元産物が多い
- ファーマーズセンター（旬の新鮮なお野菜がいっぱい）
- あきる野市民球場
- 意外と良い交通インフラ（高速道路、圏央道、中央高速（八王子）、電車＝拝島まで行けば4路線）
- 子育てしやすい環境（待機児童が少ない、秋川や公園など自然の多い）
- 定年退職後も仕事を週2日続けているので知ってほしい。（他県より参入の為）
- 五日市線、バスの本数、利便性の向上
- 私道を含めた道路整備
- 子どもから大人までいろいろな年齢の方とのコミュニケーション
- 20年後はいない
- 現状を知りたいことでもあるが子どもたちを取り巻く環境が時代に適切か気になっているところ
- 増えていく老人世代の生活上の必要についてサポートを増やしてほしいと願っている
- 老人、子育て世代、高齢者、との支え合い
- 市内有資格者の発掘
- 子どもや高齢者が安心して暮らせる環境（保育サービスや介護サービス、医療サービスの充実、生涯学習の機会を増やす。公共交通の充実など）
- 今あるあきる野の自然文化財など大切にしていけるだけ多くの市民が享受できるようにする
- 老人が閉じこもらないですむ場所
- 安心して住み続けられること
- 多様なテーマについて話し合える学び合える場や空間が数多くあるまち
- 住環境の向上
- 都心へのアクセス性向上
- 五日市線の本数増、西多摩から（拝島から）の利便性向上（特急おうめの増便）
- 働ける場所の提供、企業誘致
- 適度に緑地、農耕地、自由に遊べる休憩スペースなどを配した、魅力的な生活環境
- 観光都市あきる野のためには、遊歩道の整備、トイレ、ベンチ等の充実が必要
- 観光資源の活用（東京サマーランド、瀬音の湯、秋川渓谷などのパッケージによる観光客誘致）
- 自然と文化で集客できる”街“
- 市内各所の魅力を“コラボ”で相乗効果を図り魅力を1ランクUPする。（おもてなし）。同時に多様性にも答える（外国人含む）
- 全ての市民が地域で幸せに暮らせるまち
- 健康寿命を自慢できる“市”
- 高齢者にも活躍できる”機会”があること
- その活動を通じて生活のリズム、心身の健康を保ち”市”へも貢献する

Cグループ

- | | | |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 自然豊かな環境（川、緑を減らさない、守る） ● 自然環境、産業などが継続するようにする ● 自然環境と景観 ● 自然と景観 ● 都心にアクセスできながら、自然を感じられる場所 ● 自然が身近にある暮らし。それが魅力になる ● ヒバリが来る日常的な自然 ● 清流秋川溪谷の魅力を内外に 観光 ● 尾崎橋湿地に小さなトウキョウサンショウウオ ● 観光面ではいいアイデアが出るのではない ● 小さな自然、文化財などを大切にするまち ● 案内者の養成 ● 自然を生かす。農業の大切さと農作業を知らない者でも加わることの可能なあれこれ | <ul style="list-style-type: none"> ● 人と自然、社会の調和 ● 老若男女が過ごしやすいまち（学びの場、アミューズメント） ● 長生きしたいと思わせるまち ● 子どもから老人までが幸せに暮らせるまち ● 活力を保つ ● 安心安全がある ● 暮らしやすさ、ほかの都市から移り住んでくることも念頭に ● すぐにでも望まない提案（実現しない）。長いスタンスで徐々にゆるやかに充実させていく提案 ● 子供にとってどんなまちがよいのか、老人にとっては、そして子育てをし、生活を守っていく大人が暮らしていけるまち ● 市民の生涯にかけた充実感を得られるような人作り、支援関係 ● 人どうしの交流 ● 自治会や行事での人との地域とのつながり ● 出かけたくなる、行きたくなる場所づくり | <ul style="list-style-type: none"> ● 予備知識が無いと検討難しい ● 農地、農業関係者の意見も聞くべき ● ほかのグループの意見も聞いた方がよい ● 2回目の地域別の会を待つのもよい ● 健康第一 ● 生活している人が幸せか ● 自然と文化を大切にした落ち着いた雰囲気のみち ● 人が元気。市民全員が元気でないと来年は語れない ● 組織作り大切 ● 自然・文化と市民が共創して輝くまち ● いつまでも首都東京の田舎で ● 働く場があって活気のあるまち ● 大事だが、経済は後からついてくる ● 実はIT充実市へ ● 住んでる人が勧められるまち ● ハードともにソフトの充実 ● 地域にとってほかの人も参加できる懇談会 ● 暮らしやすさ。どの世代でも ● 経済力優先か？ ● 地域の人々にとって、観光、移住 ● 私見ではこれが先に来ると思いが生まれにくい ● 自由に話せる場が多いまち |
|--|---|---|

将来像

◆ 住んでいる人が全員幸せな市